

未来を考えつつの春開園

園長 小松 守

3月に入りお日様の力が増し始めると、雪に閉ざされていた秋田の人々は春の到来を待ちわびているように見えます。啓蟄^{けいちつ}ではありませんが、春の動物園開園は子どもも動物も活発に動き始める時期とどこか重なり、北国秋田の春の風物詩的イベントにもなっています。

今シーズンは1973年の大森山動物園創立から数えて49年目にあたり、50周年を祝う大事な準備の年でもあり、未来に向かう動物園像を描く、いつも以上に大事なシーズンになりそうです。半世紀前に創立された大森山動物園の原点は、大森山公園山頂からのすばらしい展望と豊かな緑に恵まれた自然環境で子どもの夢を育む「こどもの国」でした。未来の大森山動物園についても、この原点を大事にしながら、秋田にあって多様な動物と出会える場として、時代と共に変わる動物園へのさまざまな求めを見据え、地域社会にどう寄与し、その存在意義を高めていくかを考えていきたいものです。未来を担う次世代スタッフを中心に考えてもらいたいと思っています。

自然から離れがちな現代社会にあって、動物とのふれあいを通じた楽しい動物園体験はますます重要度が高まるはずで、今シーズンも大森山動物園をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



動物と間近でふれあい

こんにちは!

あかちゃん 2021年8月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



チリーフラミンゴ

2021年8月14日に生まれました。巣立ちをしても、親にエサをおねだりするなど、甘えん坊な一面もありますが、順調に成長しています。9ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。



フクロテナガザル

2021年11月24日にオスのパパイヤとメスのワタルの間に生まれました。当園では初めての繁殖です。お母さんのワタルが子育て上手のため、すくすくと順調に育っています。

よろしくね!

仲間入りした動物たち



メープル / メス

カナダヤマアラシ

2021年11月1日に浜松市動物園から来園しました。当園のモズク(オス)との繁殖に取り組みます。恥ずかしがり屋なのか、部屋でじっとしていることも多いですが、実は鳴き声がとてもキュート。8ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。

元気でね!

大森山を後にした動物たち



あきら
秋空 / オス

ニホンイヌワシ

イヌワシ飼育下個体群における遺伝的多様性を維持するため、2021年10月20日に東京都の多摩動物公園へ移動しました。秋空の母親は、秋田県内で保護された野生個体です。今後の繁殖に期待しています。

この他、ヨーロッパフラミンゴが香川県のしろとり動物園へ、ホンドリクロウが東京都の多摩動物公園へ移動しました。

忘れないよ…

訃報



オオハシくん／オス

サンシヨクキムネオオハシ

10月15日に亡くなりました。2015年に神戸市立須磨海浜水族園から来園し、特徴的なエサの食べ方が愛らしく人気者でした。なでられるのが大好きで、飼育員の手にすり寄ってくる甘えん坊でした。

ワタボウシタマリン

1月10日に亡くなりました。2008年3月に甲府市遊亀公園附属動物園から来園し2014年には子どもが生まれ、お父さんになりました。昔の新世界サル舎、小動物舎と引っ越し、最後は動物病院で穏やかに暮らしました。25歳の大往生でした。



ランディ／オス

アフリカタテガミヤマアラシ

1月17日に亡くなりました。2000年3月17日に来園し、当園で初めて飼育したヤマアラシです。一緒に来たオスのリュウ(2015年死亡)との間に12頭の子を産みました。5頭の子もたちが他の動物園に巣立っていきました。



ワヤ／メス

キリン

以前から貧血などの症状が見られ、継続して治療にあたってきましたが、2021年末に症状が悪化し、1月2日に亡くなりました。2012年に長野市茶臼山動物園から来園し、2020年にはリンリンとの間にケイタが誕生するなど、当園を大いに活気づけてくれました。次号で詳しくお伝えする予定です。



カンタ／オス

キヨン

12月8日に1歳半で亡くなりました。ピョンピョンと跳びはねるような歩き方に愛嬌があり人気者でした。



サツキ／メス

ハクビシン

2001年に当園で生まれ、約20年間を過ごしましたが、10月27日に亡くなりました。ほかの個体たちと、ひなたぼっこしている風景に癒やされました。



イチコ／メス

この他、ワオキツネザル、フンボルトペンギン、ポリピアリスザル等が亡くなりました。

飼育動物数 (2021年12月末現在)

哺乳類	50種	334点
鳥類	25種	130点
爬虫類	13種	31点

両生類	4種	11点
魚類	3種	23点
無脊椎	1種	23点

合計
96種 552点